

# 山家 真間

## 山家郷塾理念

一、自然の恵みと祖先の恩に感謝し、日々お蔭さまの心を以て郷生の道を歩むこと

一、地域の歴史・文化・伝統を学び考へ今を照らし、故郷の振興と再生を図ること

一、永遠と続く歴史の中にある今を意識し、祖先から受け継いだモノを守り伝えること

## 真田二代？

各地域で真田三代の人物が違ふことをご存知ですか？

それは土地土地での各真田氏への想いの深さであり、また人を惹きつけてやまない真田の生き様が、今でも灯されている光明でもあります。

現在、真田氏発祥の地である真田町は上田市と合併されました。故に真田と上田では三代の認識に相違があります。白山大権現が守護するここ

真田の郷では、真田の意志を受継ぎ伝えた方を称えており、

初代 幸綱(金隆)公

二代 信綱公 昌幸公

三代 信幸公 信繁(金村)公

となりません。世代で真田家を守った…というのが解り易いでしょうか。昭和初期の真田神社祝詞には信綱公の御名もはつきりと見る事ができます。信濃国は小県郡真田の郷にしかない、真田氏を偲ぶ想いであり、真田町の誇りでもあります。皆様の中の真田三代は、どうなっていますか？

## 四阿山信仰の真田氏



全国に名を馳せた真田氏発祥の地、信濃國小県郡は真田の郷。ここは広く崇敬を集めた白山大権現御坐します霊山四阿山(あずまやさん)に守られる地域。←山頂より真田領地を眺む(児島祐介)



奥宮の鰐口  
武州入西郡  
と銘有り←

永禄五(一五六二)年頂上奥宮を「大旦那幸綱并信綱」の名で修営されている。興味深いことは、同年中四阿山の牛王符が奉製され、永禄十三年四阿山御師に任命されたのが四阿山別当松尾家の初代、蓮花童子院 頼甚である。この意味するところは、真田家がもともとの霊山として全国より登拝されていた山の信仰を、一つの形に整えたということ。そしてそれは真田家にとって極めて重要なことであった。今でも別当家には各地を歩き頒布していた神符及び菓(四阿通気散など)の版木等残る中、ある言ひ伝えがある。『四代目松尾清兵衛』昌輝公子息五郎兵衛、松尾城の留守を預かり松尾と号し、その四男松尾清兵衛(三男弥兵衛は信之公に仕え松代へ)が別当家に入ったと云う。郷土の歴史から四阿山に重きを置く真田家の動向を垣間見ることが出来る。

## 真田の頭脳を支えた忍

信州の山奥の小さな豪族が今にまで続き、人々から変わらぬ尊崇を受けているのはなぜか？

常に最善の選択をした叡智の賜物と、決して折れることのない槍を心に秘め生き抜いた証。

その明晰なる頭脳を支えた情報源が四阿山修験であると云う。他の霊山とも独自の繋がりをもち多くの人が参詣する山中の籠屋(東西の花童子宮)、そして各地方を巡り歩き加持祈祷を行い御札や菓を配る御師としての活動。

人の数倍にも及ぶ選択肢の幅を広げ、最善の一手を打ち続けた真田の頭脳を支えたのが、まさしく山家社、白山大権現であった。

## 真田を継ぐ者

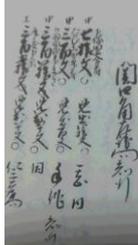
当社宝物に「鉄製湯釜」がある。

「奉寄進 白山権現御寶前 慶長七季壬寅五月吉日 関口角佐衛門綱信 敬白」の銘あり。

この人物は真田昌幸、信之二代に仕えた重臣、九度山へも随行している。神前に銘をうち奉納するということは余程の祈願あつての事であり、その年代に多くの謎が含まれている。九度山より行者に託し、白山権現の社へ奉献されたものかそれとも…。

「みなさんでぜひ考察して下さい。」

宝物鉄製湯釜



↑「知行検地帳」より  
当人の名が、実際に生きた歴史を目にできる事は  
この上ない喜びである。

